

# 特集にあたって†

棟近 雅彦\*

横浜市大病院の患者取り違い事故、都立広尾病院の与薬事故といった、医療の質向上の必要性が社会的にも強く意識されるような事件が起きてから5年あまりが経過した。この間、医療界の中でも医療の質・安全に対する様々な活動が開始されるとともに、工業界を中心に行われてきた質マネジメント活動を取り入れるために、医療分野と質マネジメント分野（工業分野）の共同研究が盛んに行われるようになってきた。医療の質・安全に対する本格的な取り組みから5年が経過した现阶段で、これまで何が行われてきたのか、これから何を行うべきかについて整理しておくことは有意義であろう。本特集では医療の質・安全、質向上のためのこれまでの取り組み、研究内容、成果を紹介するとともに、今後の課題を明らかにすることを意図している。

医療の質を取り上げる学術誌や商業誌は、近年大幅に増加している。本学会での特色は質マネジメントの視点からこの問題を論じることである。医療者と工学者が協業で取り組むことによる相乗効果によって、それぞれ単独の分野で取り組むよりも医療の質向上に向けた有用なアウトプットが期待できる。今回の特集では、医療、工学両分野で医療の質・安全に先駆的に取り組んでおられる研究者の方から、数多くの有用な考え方、ツールについてわかりやすく論じていただき、今後の課題についても整理していただいた。さらに、先進的な実践事例として4つの総合病院の方から医療の質向上活動を紹介していただいた。以下で各記事のポイントを紹介する。

†平成18年3月6日 受付

\*早稲田大学 理工学部 経営システム工学科  
連絡先：〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1（勤務先）

## ◎「医療質・安全学の構築に向けて」

飯塚悦功（東京大学大学院）、棟近雅彦（早稲田大学）

本稿では、質と安全を確保するための一般論として動機、思想、技術、マネジメント、ひと、推進という6つの要件を挙げている。そして、この枠組みで医療の質・安全の「学」の確立をめざして、これまでの取り組みと成果を総括し、今後の課題と展望を述べている。「学」の確立への提言としてTQMの適用、診療知識体系の確立、改善・改革への運動論の展開、医療の質・安全への取り組みの原則について論じている。

## ◎「患者状態適応型パスシステムと医療質経営」

水流聡子（東京大学大学院）、棟近雅彦（早稲田大学）、飯塚悦功（東京大学大学院）

従来型のクリニカルパス（以下、パス）とは、症例ごとに到達目標を定め、その目標に至るための診断、治療、看護など、チーム医療に参画する医療従事者の行為を時間軸に沿って表した予定（工程）表である。このパスでは、患者の状態変化などがあまり考慮されておらず、適用率が低いなどの問題が生じていた。患者状態適応型パスは、患者状態の変化に対応して臨床プロセスを変えていくパスであり、これまでのパスの欠点を解消し、医療の標準化に大きく貢献すると考えられるツールである。本稿では、患者状態適応型パスを概説し、それが医療の質・安全に及ぼす効果、経営管理ツールとしての効用を論じている。

## ◎「医療経営の総合的「質」研究会の活動」

池田俊也（慶応義塾大学）、佐伯みか（練馬総合病院）、飯田修平（練馬総合病院）、田村 誠（日本ガイダント（株））

本研究会は、JSQCの中で医療の質・安全の問題をいち早く取り上げ、精力的に研究を進めてきた老舗で

ある。本稿では、これまでの研究成果と意義として医療者と質管理実務家の連携、先進的な病院の調査、他の研究会活動などとの連携・基盤づくりを取り上げている。これまでに JSQC がどのような取り組みを行ってきたかを知る上で有用である。

#### ◎「医療情報システムと医療の質・安全」

大江和彦（東京大学大学院）

本稿では、病院情報システム、電子カルテ、遠隔医療などの医療情報システムとは何かを概観し、それが医療の質と安全の向上に果たす役割と課題について論じている。カーナビゲーションシステムになぞらえた医療ポジショニングシステム、根拠に基づく医療（EBM）がいかに医療の質向上に寄与するか、医療情報システムの視点からいかに医療安全を確保するのかについて解説している。また、医療情報システムや医療プロセスの標準化に関する課題、IT の誤用による危険性の増大も指摘している。

#### ◎「ヒューマンエラーと医療の質・安全」

中條武志（中央大学）

本稿では、ヒューマンエラー防止の取り組みを阻害しているいくつかの誤解について論じ、エラー防止に必要な取り組みについて解説している。エラー防止の方法論として、製造分野で発展してきたエラープルーフ化について、個別の対策と組織的推進方法を論じている。エラープルーフ化とは、人のミスの発生確率を下げる、あるいはミスをしても影響を少なくする総合的工夫である。医療現場での例も紹介されており、ミスの防止対策に大いに参考になる。

#### ◎「水戸総合病院における医療の質向上活動」

永井庸次（日立製作所水戸総合病院）

水戸総合病院は、ISO 9000:2000 の、国内最初の認証病院である。本稿では、2000 年からの ISO 9001 に基づく質マネジメントシステム構築の活動、病院機能評価受審活動との融合、持続可能な成長および自己評価の指針である TRQ 0005/0006 を活用した ISO 9001 からのステップアップ活動などを紹介している。具体的な活動としてプロセス管理、クリニカルパス、IT の活用、委員会活動、是正処置・予防処置、内部監査、マネジメントレビューを取り上げている。

#### ◎「飯塚病院における医療の質向上活動」

安藤廣美（麻生飯塚病院）

麻生飯塚病院では、QC サークルを中心に展開してきた改善活動から方針管理を取り入れた TQM 活動へと発展させつつある。本稿では、年間の TQM 活動のスケジュール、質マネジメントにかかわる組織体

系を紹介している。具体的な活動として事故報告システム、転倒・転落事故防止、褥瘡対策、インスリン注射ワークシート、誤薬防止と医療事故防止に関するハンドブックを取り上げている。

#### ◎「武蔵野赤十字病院における医療の質向上活動」

矢野 真（武蔵野赤十字病院）

武蔵野赤十字病院は、麻生飯塚病院とともに医療の TQM 実証プロジェクト（NDP）の参加病院である。QC サークル活動、医療評価委員会などの活動に取り組みながら TQM の導入を図ってきた。本稿では、人材育成という視点から様々な活動を紹介している。具体的な活動として部会、委員会などの組織編成、QC サークル、医療安全研修会、インシデントレポートシステム、クリニカルパスを取り上げている。

#### ◎「東大病院の医療安全対策」

永井良三（東京大学附属病院）

東大病院は医学部附属病院であり、上記の総合病院とは組織構造や機能が異なっている。本稿では、大学病院において医療の質・安全を確保するためには、組織の構造改革が必要であるという視点から東大病院での活動を紹介している。また、教育機関でもあるので診療・教育体制におけるシステムの改革にも触れている。さらに、誤投薬防止活動、IT を活用したインシデントレポートシステム、医療安全マニュアル、e ラーニングシステムなどの医療安全に関する情報の共有化を紹介している。

#### ◎「(社)日本品質管理学会 医療の質・安全部会のめざすもの」

棟近雅彦（部会長；早稲田大学）、水流聡子（副部会長；東京大学大学院）、永井庸次（副部会長；日立製作所水戸総合病院）

JSQC では、本特集記事で紹介された医療の質・安全活動をさらに強力に推進するために、2005 年 12 月より医療の質・安全部会を立ち上げた。本稿では、部会の意義、目的と活動を述べている。当面の研究テーマとしては患者状態適応型パス、ISO 9001 に基づく医療版 QMS の開発・精緻化、DPC を取り上げている。また、教育・啓蒙活動にも力を入れており、4 月に開講予定の質マネジメント基礎講座の内容を紹介している。

以下の 4 稿は、総合病院における医療の質・安全活動の実例である。これらの事例においては、目標とするところは同じであるが、活動形態や重点が異なっており、自身の病院に合った活動は何かを考えるために有用な示唆を与えてくれる。